

2021 年 11 月 14 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒211 番（旧 147 番）

『見よ栄えの主は聖徒を連れて』

聖書⇒イザヤ書 53:5~8 節（MT 姉）

『彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。

わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。

苦役を課せられて、かがみ込み／彼は口を開かなかった。屠り場に引かれる小羊のように／毛を刈る者の前に物を言わない羊のように／彼は口を開かなかった。

捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか／わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり／命ある者の地から断たれたことを。』

礼拝讃美歌⇒112 番（旧 189 番）（MT 姉）

『血潮したたる』

聖書⇒イザヤ書 40:28~31:章（MM 姉）

『あなたは知らないのか／聞いたことはないのか。／主は永遠の神／地の果てまで創造された方。／疲れることなく、弱ることなく／その英知は究め難い。

疲れた者に力を与え／勢いのない者に強さを加えられる。

若者も疲れ、弱り、若い男もつまずき倒れる。

しかし、主を待ち望む者は新たな力を得／鷲のように翼を広げて舞い上がる。／走っても弱ることがなく／歩いても疲れることはない。』

礼拝讃美歌⇒316 番（旧 88 番）（MM 姉）

『わが眺むるは』

聖書⇒詩編 119:18:節（SK 兄）

『わたしの目の覆いを払ってください／あなたの律法の驚くべき力に／わたしは目を注ぎます。』

《パン裂き》

聖書⇒イザヤ書 56:5~7a:節 (ES 姉)

『わたしは彼らのために、とこしえの名を与え／息子、娘を持つにまさる記念の名を／わたしの家、わたしの城壁に刻む。その名は決して消し去られることがない。また、主のもとに集って来た異邦人が／主に仕え、主の名を愛し、その僕となり／安息日を守り、それを汚すことなく／わたしの契約を固く守るなら わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き／わたしの祈りの家の喜びの祝いに／連なることを許す。彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるなら／わたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 9:14:節 (ES 姉)

『まして、永遠の“霊”によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか。』

聖書⇒マタイによる福音書 26:26-28:節 (ES 姉)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。』

礼拝讃美歌⇒146 番 (旧 61 番) (ES 姉)

『子羊の血にて』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 14:15-17、26:節 (SK 兄)

『「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これから、あなたがたの内にいるからである。

しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。』

聖書⇒マタイによる福音書 7:21 節 (TM 兄)

『「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。』

聖書⇒哀歌 3:31~33 節

『主は、決して／あなたをいつまでも捨て置かれはしない。
主の慈しみは深く／懲らしめても、また憐れんでくださる。

人の子らを苦しめ悩ますことがあっても／それが御心なのではない。』

聖書⇒コヘレトの言葉 7:14 節

『順境には楽しみ、逆境にはこう考えよ／

人が未来について無知であるようにと／神はこの両者を併せ造られた、と。』

聖書⇒創世記 1:26a 節

『神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。』

聖書⇒コヘレトの言葉 11:9、12:1~2 節

『若者よ、お前の若さを喜ぶがよい。青年時代を楽しく過ごせ。心にかなう道を、目に映るところに従って行け。知っておくがよい／神はそれらすべてについて／お前を裁きの座に連れて行かれると。』

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。「年を重ねることに喜びはない」と／言う年齢にならないうちに。太陽が闇に変わらないうちに。月や星の光がうせないうちに。

雨の後にまた雲が戻って来ないうちに。』

聖書⇒ルカによる福音書 15:11 以下

『また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。…まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。』

聖書⇒申命記 31:6 節

『強く、また雄々しくあれ。恐れてはならない。彼らのゆえにうろたえてはならない。あなたの神、主は、あなたと共に歩まれる。あなたを見放すことも、見捨てられることもない。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15:9 節

『父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。』

礼拝讃美歌⇒438 番（聖 392 番）

『神はひとり子を』

《建徳要旨》

- ① ヨハネ 14 章 16 節：父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。父神様のもとへ移ることを悟られた主が、弟子たちに言われたことです。ところで、この世には霊の世界があることが、創世記 1 章 1 節、2 章 7 節、1 コリント 2 章 10~13 節、エフェソ 6 章 12 節その他から分かります。私たちはいつも聖霊を意識する必要があります。私たちが経験した素晴らしい奇跡は、主を信じる者とされ、毎主日に、喜びにあふれて礼拝に出席させて頂く身分にされたことです。主を深く知り、主にお救い頂いた喜びにあふれ、いつも聖霊に

お助けを求めるためには、聖書全巻の通読スピードを上げて何十回、何百回と通読し、もっと御言葉全体に親しむことが必要だと導かれました。主は聖書の全巻を通して、主御自身を私たちに示されるからです。 (S・K)

- ② **マタイ 7 章 21 節：わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。**神様の御心とは何でしょうか。3つの疑問を切り口にして考えます。①なぜ神は困難や苦しみを与えられるのか？哀歌 3 章 31～33 節：それを与えるのは、試練として練り清めるため。コヘレト 7 章 14 節。②神が全能なら、どうして万人を信じる者にしないのか？創世記 1 章 26 節。神は自由意志を与え、操り人形ではなく自分で神の御心を選んだり、神に応答できる者として創造された。③宗教を考えるのは人生の最後で良いのではないか？この世の事も重要だが、コヘレトは 11 章 9 節、12 章 1 節で、若い日に創造主を覚えよと勧めている。以上のことから、神様の御心とは、私たちが神の子として神様の御国に招き入れる事。私たちが御国に無事に帰って来るのをずっと待っていてくださる、それが神様の御心だと、しみじみ思わされた (T・M)